

東証一部上場で事業所向けトータルサービス大手のダイオース（東京都港区）。昨年、創業50周年を迎え2020年3月期の売上高は360億円にのぼる。更なる成長を見据える同社が現在注力する分野が環境衛生分野。今年4月に展開を開始した空間除菌消臭機「ナノシードα」のレンタル事業は大きな反響と需要を得ている。

## ダイオース

## 環境衛生分野に積極投資

## 「ナノシードα」に強い需要

米屋からオフィスサービスに  
グローバルに事業を展開



ダイオース  
代表取締役社長  
大久保 真一氏

同社のこれまでの軌跡は、まさにチャレンジを重ねた歴史ともいえる。

創業者である社長の久保氏は、ダイオースの前身である実家の米屋を日本一の米屋（OCS）にするため、流通の本場である欧米での単身武者修行をはじめ、帰国後は米屋の御用聞きと配達の機能を活かして、近隣の米屋を束ねて「配達スーパー」を行っていたという。

しかしそれだけで事業を伸ばしていくのは限界があると感じ、新しい成長戦略の柱が必要だと考えていま

「新しい成長戦略の柱が必要だと考えていま」がポイント。そこでダスキンに加盟し、家庭からオフィス・事業所向けサービスに打って出まし

さかのぼって2000年以降はアジア各国での展開にも力を入れている。

広範囲を除菌・消臭  
機をウイルスにも抑制効果

そのなかで目下注目を集めているサービス

が空間除菌消臭機「ナノシードα」のレンタル事業だ。99・99%の精製水と0・01%の二酸化塩素を配合した水溶液を、特許取得のイオンエンジン4基でナノ化・拡散して空間を除菌、消臭する。広範囲ウイルスや菌に有効で、これまでのテストでは黄色ブドウ球菌、大腸菌、セラチア菌、クロコウジカビ、肺炎桿菌（はいえんかんきん）、パシラス菌、などで効果を発揮している。特徴としては「ナ

ノシードα」1台で約100畳（約160㎡）の除菌・消臭が可能。従って、今後環境衛生分野への積極投資を進める方針。新型コロナウイルス製品では8〜10畳を対象としていたが、「ナノシードα」はそれの10倍以上の広範囲をカバーすることができ、需要も上々だ。大久保氏は「「ナノシードα」は国内供給を強化しながら、その先のお客様を中心に供給してありますが、予想以上に大きな反響があり、毎日多数の問い合わせをいただいております」と話す。その分野で、最近では医療機関や公共施設からの需要も拡大している。

ダイオースでは、お



▶1台で約100畳の広範囲を除菌・消臭する

国内ではさらに拡大

を続けた。これまでダ

スキン加盟店として展

開してきたサービス

を、自社でクリーンケ

ア事業として独立。2

003年には米国カバ

ールと提携。少し